



JR-MS

株式会社 JR東日本メカトロサービス

<http://www.jrms.co.jp/>

フィールドエンジニアガイドブック

機械に、人に、
ひたむきに。

本社・東京支店

〒108-0023
東京都港区芝浦3-9-1
芝浦ルネサイトタワー

TEL: 03-6690-6001
FAX: 03-6691-8471

大宮支店

〒330-0853
埼玉県さいたま市大宮区錦町1017
(JR東日本大宮総合車両センター内)

TEL: 048-653-1031
FAX: 048-653-1103

仙台支店

〒983-0852
宮城県仙台市宮城野区榴岡1-6-30
ディーグランツ仙台ビル6階

TEL: 022-257-1177
FAX: 022-257-1179

仙台支店 郡山支所

〒963-8003
福島県郡山市燧田195
郡山駅南部現業事務所1階

TEL: 024-924-0171
FAX: 024-924-0172

JR-MS



About Us



私たちはフィールドエンジニアとして
自動券売機、自動改札機などの
出改札機器をはじめ、
ホームドアや空調機器に関する
日々のメンテナンスや故障対応を行っています。



そうした技術サービスを通じて
駅を利用されるお客さまに、いつもと変わらぬ
“あたりまえの日常”をお届けしています。



フィールドエンジニアの主な仕事

メンテナンス業務

● 出改札機器の維持管理

各駅に設置している自動改札機・自動券売機などの出改札機器を安心してご利用いただくために、定期点検や故障対応を通じ、品質を確保しています。



● ホームドアの維持管理

お客さまに安心してご利用いただけるよう、ホームドアの定期点検や故障対応をしています。

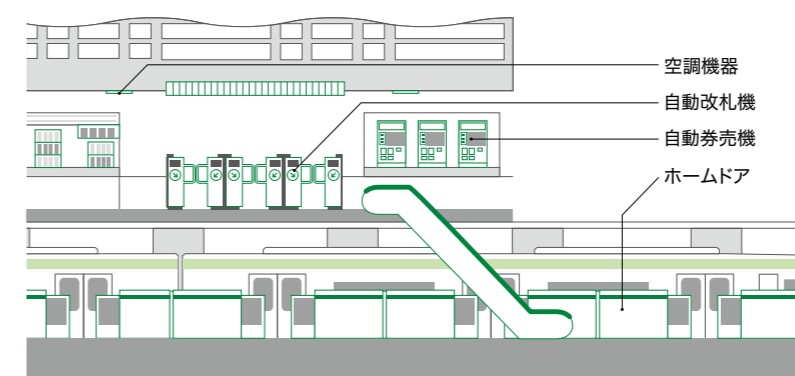


● 空調機器の維持管理

快適な駅空間をご利用いただくために、協力会社と連携しながら、駅や信号機器室に設置されている冷暖房装置・ボイラー、換気・排煙装置の定期点検や故障対応をしています。



出改札機器から空調機器、ホームドアまで。



フィールドエンジニアがメンテナンスを担当するのは、自動改札機・自動券売機に加え、空調機器や転落防止のために設置の進むホームドアまで多岐にわたります。とくに自動改札機やホームドアは、駅の最重要設備であり、その技術も進化し続けています。日々の経験から技術力を磨き、最新動向にアンテナを張りながら、的確で迅速な定期点検・修理を実現するフィールド技術サービスを提供しています。

Scenes

とある駅からお届けする
若きエンジニアたちの想い

フィールドエンジニアはさまざまな時間帯に、さまざまな場所で働いています。
今日も、とある駅で若きフィールドエンジニアたちがメンテナンスに励んでいます。

🕒 02:30

誰もいなくなっただけで、本番。

終電が発車し、がらんとした駅。私たちにとっては、そこから本番だ。事前に打ち合わせたように、迅速かつ確実にホームドアの点検作業を進めていく。大丈夫、わからないことがある時や不安になった時は、かならず先輩たちがサポートしてくれる。それにしても、いつの間にか自分の作業が速くなっていて、嬉しい。



🕒 04:30

今日も一日、何事もない
“あたりまえの日常”を提供する。

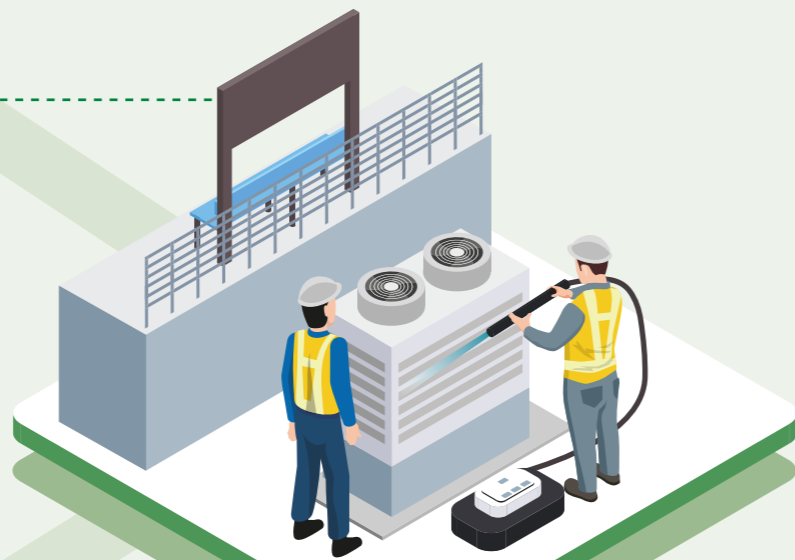
無事、ミスもなく時間どおりに作業を終わらせることができホッとしている。これで通勤・通学などに支障をきたすことなく、ホームドアは安全に機能してくれるだろう。そのことが仕事のモチベーションにもなっている。今日も一日、何事もない“あたりまえの日常”を皆さまに提供できますように——そんなことを考えながら、帰宅する。



🕒 10:00

空気がおいしいって気持ちがいい。

今日は、駅の空調機器の定期メンテナンスの日。高圧洗浄機を使う協力会社の人たちに的確に指示をしている先輩のおかげで、空調機器がスムーズに、どんどんとキレイになっていっている。早く先輩みたいにならなくては！しばらくするといい空気が入ってくる。まるで駅構内が澄んだようになる。これで、お客さまにもより気持ちのいい空気を吸っていただけるはずだ。



🕒 13:30

お腹も知識も満たされる。

作業した駅の近くのお店で先輩と一緒に昼休憩。ランチを食べながら、先輩に午前中の現場での不明点について質問していく。私の拙い説明にも先輩はいやな顔一つせず、おだやかに、そして的確に答えてくれる。将来、先輩ができたなら、自分もこんな人になれているといいな。

🕒 15:30

新しい機械をいじること
ワクワクが止まらない！

自動券売機の新機種が出たため、研修室で訓練を重ねてきた。いよいよ、今日はそのメンテナンスにいけると聞いて、ついワクワクしてしまった。現場に着き、券売機の扉を開けると研修室で見たパーツがたくさんあった。新しい機械を触ると、いつも童心を思い起こさせる。研修室で訓練したことを一つひとつ思い出しながら、お客さまにとってより快適な駅利用につながることを願い、メンテナンスを進めていく。



🕒 18:40

現場に向かいながら故障原因を想像する。

「自動改札機の調子がわるい、急いで対応してくれ」とオンコールを受けた。準備をしつつ、これまでの故障対応を思い出し、どこに異常があるのかを想像しながら現場に駆け付ける。頭の中でシミュレーションしていたおかげで、スムーズに復旧できた。

🕒 19:30

「ありがとう」という言葉が
心の支えになる。

復旧まで、それほど時間はかからないと思えますと伝えると、駅係員の方々が喜んでくれた。この仕事は社会的な責任も大きく、いつも緊張する。しかし同時に、ほかでは得られない誇りや喜びにもなっている。「おかげで助かりました。ありがとう」と、ねぎらいの言葉をかけてくれた。あたたかい気持ちになった。





復旧を喜んでくださる姿を見ると “エンジニア冥利”に尽きる。

東京支店 サービス1課(現:仙台支店 サービス課)
大裕 一季

高等専門学校(創造工学科 電気・電子コース)卒

Profile

子どもの頃から電化製品の仕組みに興味があり、壊れた機械を直したり、分解したりするのが好きだった。「ときどき戻せなくなって、叱られることもありました(笑)」という彼だが、高専時代に難関といわれる技術士補の電気電子部門の資格を取得している。

「機械いじり」と「鉄道」という 自分が好きなものを 仕事にしたかった

昔から電化製品を分解したり、壊れた機械を直したりするのが好きだったこともあり、高等専門学校では電気・電子について学びました。とくに力を入れていたのは、電気系の資格取得やそれに向けた勉強、実技演習などでした。電気の基本知識やそれぞれの電子部品の構造・役割を学んだことは、今の仕事にも役立っています。機械いじりが好きだったので、就職活動中もメンテナンスができる仕事を中心に企業をまわっていたのですが、最終的にJR-MSを選んだのは、祖父が鉄道関係の会社に勤めていたこともあって昔から鉄道に慣れ親しんでいたからです。好きなものを仕事にするって幸せなことですね。



いろんな場所へ移動できるワークスタイルにも惹かれた

学生の頃から、自分の性格としては、デスクワークよりも現場の仕事の方が向いていると感じていました。工場勤務とか、車両メンテナンスという選択肢もありましたが、同じ場所で勤務するのではなく、毎日移動して、いろんな駅に行けることも魅力で、JR-MSへの入社を決意しました。実際、毎日のようにさまざまな駅で作業をしています。そのためランチをいろいろなところで食べられる、というのも魅力です(笑)。グルメな先輩にいい店を教えてくださいました。

一刻を争う「オンコール 対応」にやりがいを感じる

現在、私は東京支店 サービス1課(現:仙台支店 サービス課)に所属し、自動券売機や自動改札機などの定期点検や故障対応に取り組んでいます。とくに故障があったらすぐに現場に駆け付ける「オンコール対応」はやりがいを感じます。例えば、「改札機にぎっぶが詰まった」というオンコールでも、実際に現地に行くと、ぎっぶが詰まってしまっている箇所には不具合が見られない…ということが時々あります。そんな時も慌てず、頭の中で改札機内で何が起きているのかをシミュレートし、怪しい部分に動作テストを実施してみます。その結果、一度目で異常箇所が見つかることもあり、スムーズな復旧を喜んでくださる姿を見ると、なんだかエンジニア冥利に尽きます。また、現場経験を重ねるごとに知識や技術、知見が広がっていくのを実感します。

もっと幅広く経験を 積んでいきたい

多くの業務にチャレンジしてみたいと思っています。仙台支店や郡山支所でも働いてみたいですし、ほかのさまざまな業務も経験して、多くのことを任せてもらえるようになりたいです。それと仕事に関連する電気関係の資格も取得しようと考えています。加えて、後輩たちが頼ってくれる先輩になりたいと思っています。私の先輩たちは後輩に何を聞かれても、すぐに答えてくれます。また、オンコールがあった時に、その受付内容から「この部品を持って行った方が良い」「あの部分をよく見てみて」「あの箇所の動作は要チェック」と的確なアドバイスをもらったこともあります。また、出勤前には部品の交換・調整のやり方や復旧方法を技術研修室の実機を用いて教えてくれる先輩もおられ、安心して現地へ赴くことができます。そういった先輩たちに本当にあこがれます。



JR-MSの仕事にも“四季”がある

この仕事には“四季”があると思っています。例えば、鉄道は冬から春にかけてダイヤ改正があり運賃や制度が変わったり、新しい駅が開業したりするので、自動券売機や自動改札機のバージョンアップ作業をやらなければいけません。また、夏のお盆休みや年末年始など多くのお客さまが利用する時期には故障が増えるため、駅で待機することもあります。そんな風に季節によって移り替わる仕事も楽しいです。

「あたりまえの日常を支える」という、誇りと責任

私たちの仕事は、駅や鉄道をご利用のお客さまに直接的に関わるものではありませんが、自動改札機や自動券売機などの機械・設備の安定稼働を通して、間接的に多くのお客さまの日常を支えています。また、故障対応が終わった際、「早く復旧してくれて助かったよ」と声をかけられることがあります。そのたびに「多くのお客さまの日常を支えているのだな」と、責任感と誇りのようなものを感じます。



アイデアをカタチにする—— そこにやりがいを感じている。

東京支店 ホームドア課
白石 岳

高等専門学校(機械工学科)卒

Profile

進学の際に「どうせなら人と違うことがしたい」と一念発起して高等専門学校へ。そこから、材料を加工して何かをつくりあげていくという“機械いじり”に目覚めた。ロボットコンテストにも参加し、仲間と一緒にアイデアとデザインに注力したユニークな“動物の動きを忠実に再現したロボット”を作成した。

高専時代、機械いじりの 楽しさを知った

中学校までは機械にはあまり接点がありませんでしたが、進学するにあたって「本格的な設備などを使いながら、実際に手を動かしてモノをつくってみたい」と高等専門学校に行くことにしました。そうしたら、予想以上におもしろくて“ドハマリ”しました。とくに、金属の板に寸法を書いて、その図形どおりに切断したり、穴をあけたりして、だんだんモノが出来上がっていくのが楽しかったです。仲間と一緒にロボットコンテストにも5年間参加したのですが、皆でアイデアを出し合ってロボットをつくったのは忘れられない思い出です。残念ながらコンテストでの成績は振るわなかったのですが、「人に魅力的な機器をつくる」ということにチャレンジできたのが、今の仕事の礎になっているような気がします。



3D CADに 出会えたことに、感謝

ロボットコンテストに出る時に、当時から主流になっていた3D CADを学びました。最初は「学ばないと置いていかれてしまう」という義務感のようなものから始めたのですが、勉強してみると、モノをつくるパーツが立体的なので、その組み合わせが考えやすく、これは非常に便利だと以降、夢中で勉強しました。そのおかげで現在の仕事も3D CADが大いに役立っていて、例えばホームドアを動かすベルトのたわみを点検する際に使用するオリジナル工具など、実際に作業していて気付いたことを踏まえた工具をつくっています。



チームでつくるから、 アイデアは尽きない

3D CADを使える人が限られているので、実際に形にするのは私やほかの部署の人で担当しているのですが、アイデア自体は皆さんからつぎつぎと出てきます。例えば、ホームドアの開閉を滑らかにするためにグリスを注油しているのですが、そのグリスを入れるための工具が円筒なので、ホームをこころ転がってしまう可能性が十分あり、危険だという意見が出ました。だったら転がらないように四角形のでっぱりを付けばいいんじゃないか…と、どんどんアイデアが出てきて、実際にオリジナル工具をつくりました。こんな風に、皆さんから出てくるアイデアを次々に形にしていけるのも楽しいです。

何より大切なのは「安全」なこと

ご存知のとおり、ホームドアの点検作業や故障対応は線路に近いところで実施します。なので作業員自身がうっかりしていると、工具を落としてしまったり、最悪の場合は作業員が落ちてしまう可能性があります。地面までは1メートル以上あるので、大けがをしてしまうかもしれません。ですから、電車が走っている時はもちろん、終電後の時間帯であっても集中を切らすことはないですし、常にみんなで安全を確認しています。何しろ、ホームドアは利用者の「安全」のために取り付けられているのです。そのメンテナンスを担当する私たちも「安全」をおろそかにはできません。



この会社の魅力は 自分たちで“トライ&エラー” をできること

ホームドアは電車の運行に非常に密接に関係しているため、電車を停めないように作業をするという厳しいルールが設定されています。私たちは、それに則って作業をしているのですが、それが遂行できること、無事故で作業できることは、実はすごいことなんじゃないかと考えています。それができるのは、JR-MSには自分たちで自主的に作業をもっと改善していこうという意気込みがあるからだと思います。いわば“トライ&エラー”を自分たちの手でできるところが、この会社の魅力ではないでしょうか。



Work Style



Let's Check!

教えて! 仙台支店

Point 1 宮城、山形、福島の自動改札機・自動券売機などの出改札機器と空調機器のメンテナンスや故障対応によって“駅の日常”を支えています!

仙台支店では、仙台と郡山の2拠点で、180近い駅の自動改札機・自動券売機などの出改札機器や空調機器のメンテナンスや故障対応に取り組んでいます。基本的に駅までは車で移動するため、長い時は片道2時間半かかることもあります。

180近い駅の
出改札機器・空調機器がメンテナンス対象



Point 3 東京本社とも連携し、メンテナンス手法もきちんと共有しています!

東京本社と仙台支店間でメンテナンス手法や故障対応など、なんでも相談できる環境が整っています。



Point 2 仙台支店は「サービス課」「空調課」「郡山支所」で構成されています!

※郡山支所は出改札機器・空調機器の維持管理をしています

サービス課

- 自動改札機・自動券売機など出改札機器のメンテナンス・故障対応
- パージョンアップ作業
- 部品の管理
- 新規出改札機器の設置工事



空調課

- 冷暖房装置・ボイラーのメンテナンス・故障対応
- 換気・排煙装置のメンテナンス・故障対応



寒すぎて室外機が凍ってしまうなど、東北ならではのアクシデントも!

Point 4 教育制度も充実しています!

東京本社には現場と同じ機器が設置された「技術研修室」がありますが、仙台にも点検対象の機器を設置している「ハウスマシン室」で、作業のシミュレーションや不安な点の事前確認ができるので、安心して仕事に臨めます!



仙台社員インタビュー

仙台支店 サービス課 遠藤 弘昌
大学(機械工学科)卒

Profile 子どもの頃からプラモデルをつかったり、廃材を使って工作をしたりするのが好きだったという遠藤。大学では4大力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)を学んだ。もともと東京本社で勤務していたが、2021年4月の「仙台支店」新設に合わせて異動してきた。現在、本社での経験を活かしてサービス課を引っ張っている。



仙台に赴任した時は、どんな心境でしたか?

実は、仙台支店を新設する1年ほど前から「新しく仙台に拠点を設ける。その立ち上げメンバーとして参加してほしい」という話は当時の上司から言われていました。正直、わくわくしました(笑)。ずっと東京に住んでいたのに外に出てみたいと思っていましたし、仙台も行ったことのないエリアで、私にとっては“未踏の地”でしたから。一から支店をつくらなくてはいけないので不安も少しだけありましたが、準備期間から上司や同僚の方たちがアットホームで、皆で協力してがんばろうという雰囲気があったので安心しました。また、東京本社では経験していなかった新規機器の設置工事などを任せられるなど、仕事の幅が広がってやりがいを感じています。

仙台支店の雰囲気はどうか?

仙台支店は2021年4月に発足したばかりで、人数も少ないので、経験豊富で人数も多い東京本社と連携しながら仕事を進めています。逆に言えば、ワンフロアにすべての課が集まっている分、先輩や後輩、課を問わず、わからないことや困っていることがあれば何でも質問し合える風通しの良い組織だと思います。また、何か気になることがあれば、すぐに言い合えるようなコミュニケーションを大切にしています。この仕事は“一匹オオカミ”ではできませんから、協力しながら物事を進めるということを全員が心がけています。あと、支店内の有志で月1回ゴルフに行ったり、半年に1回くらい東京本社のゴルフ好きな方との交流戦をしたり、和気あいあいとした雰囲気です。

最も印象に残っている仕事は何ですか?

2022年3月16日に起きた地震にともなう故障対応です。あの時は新幹線が脱線してしまうほどの大地震の影響で、ある駅から券売機が破損したというオンコールが入りました。駅係員の方からも「当日中の復旧は難しいだろう」「券売機の交換もやむなし」と言われていましたが、私たちは「地域のインフラを維持するために当日中に復旧させよう」と考えました。結果的に当日中に何とか復旧できたのですが、これを実現できたのは三つの要因があったからだと思っています。一つは券売機のデータなどの致命的な損傷や故障がなかったこと、二つ目は部品の調達が早くできたこと、そして何より大きい要因は、復旧に向けて仙台支店と東京本社がさまざまなアイデアを出し合ったことです。JR-MSがチーム一丸となって一つの修理に向き合ったことは本当に心強かったですし、誇りに思いました。

コミュニケーションを大切に、機械に真摯に向き合う職場です!



平均的な1日の流れ

8:30	8:40	9:00	10:00	12:00	13:00	15:00	16:00	17:00	17:10
出勤・全員で体操 朝礼	作業の準備	駅に向けて出発	作業開始	お昼休憩	作業再開	作業を終えて帰社	報告書・日報の作成	終礼	業務終了

JR東日本メカトロサービスとは

自動券売機や自動改札機などの出改札機器、ホームドア、空調機器などの駅設備のメンテナンス等を通じてお客さまの快適性や利便性、鉄道の安定輸送、そして、安全を支えている会社です

当社の強み

JR東日本の 関連企業

JR東日本の関連企業として、駅におけるさまざまな設備・機器のメンテナンスや故障対応、工事、製造などを通じたフィールド技術サービスを提供しています。



鉄道の安定輸送の 一翼を担当

出改札機器やホームドア、信号機器室や地下駅の空調機器など、駅における重要な設備を任されています。



研修環境が充実

実際に駅で使用する出改札機器やホームドアが設置された「技術研修室」を設置。これによって、日常的にさまざまな機器を利用した研修ができます。



会社概要

社名	株式会社JR東日本メカトロサービス(JR-MS)
設立	1984年4月15日(株式会社ポムとして設立)
資本金	5,000万円
主な株主	JR東日本メカトロニクス株式会社
売上高	30.5億円(2022年度)
従業員数	171名(2023年3月現在)
建設業許可	機械器具設置工事業、電気通信工事業、管工事業
ISO認証登録	ISO9001取得(大宮支店: 駅務機器、周辺機器および物販機器の工場検修・修繕、組立・検査)

拠点紹介

大宮支店

自動券売機や自動改札機の組み立て、修理やオーバーホールなどに取り組む製造事業拠点。そのほか、新しいソフトやIC乗車券・ICカードシステムへの適合性の確認、自動券売機の画面レイアウト、磁気券の印刷情報などのデータ作成も担っています。



仙台支店・郡山支所

宮城・山形・福島の出改札機器、空調機器の維持管理に取り組む、2021年に開設した事務所。福島県には郡山支所もあり、仙台と郡山の2カ所から東北3県の駅の日常を支えています。



本社・東京支店

東京を中心とした首都圏エリアの技術サービスを担当。本社のあるビルには駅的环境を再現した「技術研修室」があり、自動券売機や自動改札機、ホームドアなどの実際の機械を使った研修や点検前のシミュレーションができます。

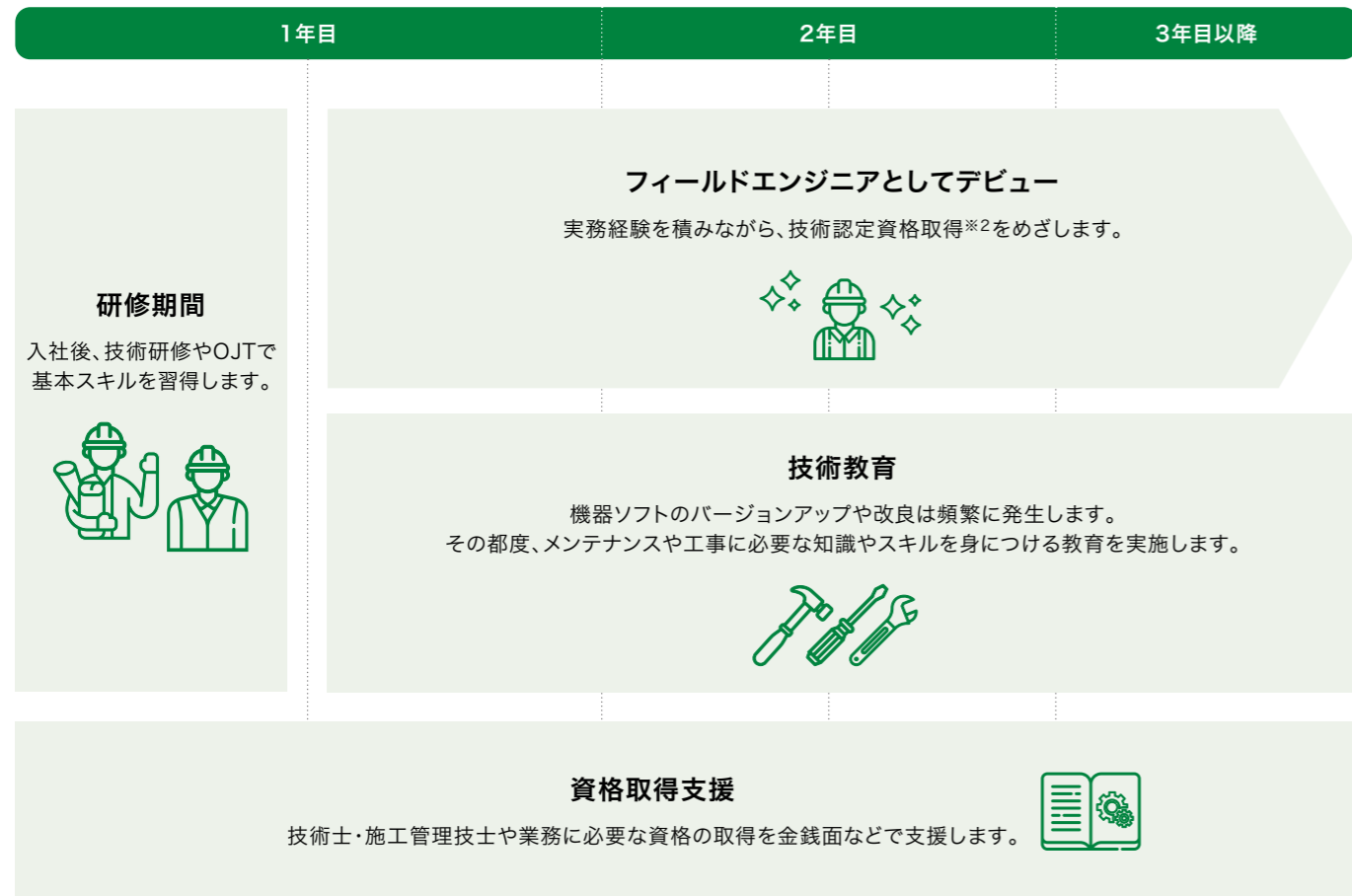


沿革

1984年	「株式会社ポム」として発足、紙幣識別ユニット、コインホッパーの工場検修と印刷発行機のメンテナンスを開始
1991年	自動改札機搬送部のオーバーホールを開始
1999年	ジェイアール東日本メカトロニクス(株)(現: JR東日本メカトロニクス(株))大宮事業所の全検修部門を受託(大宮に拠点を設置)
2000年	御徒町駅～田端駅間においてフィールドメンテナンスを開始(エリアメンテナンス方式の試行開始)
2002年	社名を「株式会社ジェイアール東日本メカトロサービス(JR-MS)」に変更
2005年	山手線29駅、中央線7駅にエリアが拡大(エリアメンテナンス方式の完成)
2006年	東京モノレールの出改札機器メンテナンスを開始
2007年	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉新都市交通(全線)の出改札機器メンテナンスを開始 常磐線の出改札機器メンテナンスを開始(三河島駅～取手駅および南流山駅) 鉄道博物館Suicaシステムのメンテナンスを開始
2008年	<ul style="list-style-type: none"> JR東日本メカトロニクス(株)の製造業務を完全受託。製造事業、試験事業等の拠点として「大宮事業所」を新設 社員の教育訓練を実施する「訓練センター(現: 技術研修室)」を秋葉原に設置
2013年	山手線のホームドアメンテナンスを開始
2014年	24時間ホームドアメンテナンス対応を開始
2016年	駅務機器保守対象駅に東京都内17駅を追加
2017年	JR東日本メカトロニクス(株)から東京地区の空調関連業務を移管
2019年	社名を「株式会社JR東日本メカトロサービス(JR-MS)」に変更
2021年4月	仙台フィールド支店を開設
2023年7月	東京支店を開設。仙台フィールド支店を仙台支店、大宮事業所を大宮支店と改称
2023年11月	本社および東京支店を東京都港区芝浦に移転。郡山支所を福島県郡山市燧田に移転

教育制度※1

実際の現場で必要となるスキルを無理なく習得できるプログラムを整備し、良質なメンテナンスサービスを提供できる人材を養成しています。技術者に求められる知識や技能とともに、社会インフラの安定に貢献し続ける企業の一員としての使命感の醸成にも注力しており、訓練修了後は、自信を持ってフィールドメンテナンスをできるようになります。



※1 研修期間・内容は年度により異なります。

※2 技術員の「鉄道」「機械設備」「保全」「法令遵守」の知識・技術レベルを確保するためにJR各社が導入している資格取得制度です。

資格取得支援制度

社員が各種技術資格などの取得にチャレンジすることを奨励しています。奨励資格を取得すると、資格に応じた報奨金が支給されます。

報奨金例

技術士 (機械、電気)	1級管工事、電気工事、 電気通信施工管理技士	2級管工事、電気工事、 電気通信施工管理技士	第一種電気工事士	第二種電気工事士
15万円	10万円	5万円	10万円	5万円

福利厚生・勤務環境

少ない残業時間 前年度平均 7.6 時間 (2022年度) 	有給休暇取得も容易 前年度平均 16.3 日 (2022年度) 
育児・介護制度の充実 時短勤務、復帰後社員への相談窓口の設置など 男性社員育休取得率 100% (2022年度) 	仕事と家庭の両立を支援 次世代子育て支援サポート企業 くるみん認定取得 

JR-MS ではこんな人材を募集しています!

チャレンジ精神 努力と研鑽 仲間との連携 使命感の共有
 社会貢献がしたい 柔軟な発想力 機械システムが好き

エントリーはこちら!

